

語林類葉

女に

十二

ホ 2

502

12

70

65

60

55

50

45



Vertical columns of faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in approximately six columns, reading from right to left.

A page of paper with a faint vertical line on the right side and a faint horizontal line at the bottom. The page contains very faint, illegible markings, possibly bleed-through or ghosting of text from the reverse side.

門 102
跡 102
卷 12



語林類彙卷之十二

清々濱臣輯

奈行
かの部

一言

名

拾遺雜字をよみてつけ

下畧

元浦

○兼元 いそて

十三 〇住吉太臣殿のそと多きものたそちん

いそる志しりおしぬくぬてちんといふ女

〇竹取公名はほろんすまといふ

仙女

〇続世

継 ゆゑ

自他君といふも名つけ多し

〇同 坂川の

あはつち... 祝緒

百良... 摩屋君○金集

下... 業花

一冊... 業花

三ウ... 美人集

女下仕... 袋中子

壬生志見幼名... 祝緒

継... 祝緒

諸村撰集卷之十二

二言

あき 海ニイハスミテ空ニイハリ○風ニハ常ニイフ

五代釋教 色即見空々即見色 白雲門院別當

○

栗実

只は... 栗実

○保妻女集 詞 人志を女志の如きなりし○続世継

今昔廿五十一童位三十一

ハハ糸鳴呼ナルルニハ非スマ○同廿八一セマ

夜ナキ
ココナキ
ヨロココナキ
童ナキ
古ナキ

ハシタナク
イワケナク
ウシロメタナク
ユクリナク
真加ナク
イトケナク
アラケナク
コチナク

メヤカニ六借ラセ給ヒケシハ殿上人共皆舌
突ヲシテ此ヨリ後ハ不咲マシキ申ラ云契テ
ケリ○浅草ニむらめの内へ入りてはけきと申し
語してまじき○夫木世五○

果らくナクハ助辞也

万廿五
ナクニ
ナクニ
ナクニ
ナクニ

イラナク
ウコハカトナク
オキナキ

一の葉
一の表
一のの葉

あけ

古今草子 素性
いさよふは山色にほりぬらん
あけの葉のむらめ
かきあほはえぬらん
あけの葉のむらめ

○源 蓬生
あけの葉のむらめ
○同 若菜
あけの葉のむらめ

あけの葉のむらめ
あけの葉のむらめ
あけの葉のむらめ
あけの葉のむらめ
あけの葉のむらめ
あけの葉のむらめ

六帖
あけのぼる雲の
あけのぼる雲の
あけのぼる雲の
あけのぼる雲の

○

あほ イヨノ意ニ用ヒシ例

千雑中 後系良清

伊勢集

後撰秋中

巻記四十二

名月

はる

あほ

あほ

あほ

あほ

イト、ナホ
イカテナホ

あほはあほ君にあは返違へて一國の清きそふ

新拾五 為世々
あほはあほ君にあは返違へて一國の清きそふ

新後拾五 清守回遊
あほはあほ君にあは返違へて一國の清きそふ

同巻二 後二系院
あほはあほ君にあは返違へて一國の清きそふ

同難上 参玄法師
あほはあほ君にあは返違へて一國の清きそふ

新続古難上 資藤
あほはあほ君にあは返違へて一國の清きそふ

同難中 後小松院
あほはあほ君にあは返違へて一國の清きそふ

同春上 法系良舜
あほはあほ君にあは返違へて一國の清きそふ

拾遺難林
あほはあほ君にあは返違へて一國の清きそふ

十ホーシ

あほ丸

拾遺雜春

あほ丸 拾遺雜春 ときし時 あほ丸 ときし時 あほ丸 ときし時

○源 梅枝

あほ丸 ときし時 あほ丸 ときし時 あほ丸 ときし時

あほ丸

○源 梅枝

あほ丸 ときし時 あほ丸 ときし時 あほ丸 ときし時

十マシロク
十マワカシトホリ
十マ女房
十マ夕暮
十マ徳アル
十マ名僧

十マクルシク
十マクラキ
十マイトミ
十マコヒシク
十マサフラヒ
十マ学生
十マヤヤキ
十マ心ヤマシク

房ニ取テ○同 同 生夕暮ニ成ヌレハ○同 廿

九 四 生夕暮ニ○同 同 生徳アル法師有ケリ○

同 廿 六 廿 二 京ニ生名僧ニテ人ノ請ヲ取テ行

世ヲ渡ル僧有ケリ○源 者本 所セザル人ニテあほ

丸 同 大和物語あほ丸ニテ人ノ請ヲ取テ行

あほ丸 同 大鏡序あほ丸ニテ人ノ請ヲ取テ行

同 大鏡序あほ丸ニテ人ノ請ヲ取テ行

あほ丸 同 大鏡序あほ丸ニテ人ノ請ヲ取テ行

あほ丸 同 大鏡序あほ丸ニテ人ノ請ヲ取テ行

あほ丸 同 大鏡序あほ丸ニテ人ノ請ヲ取テ行

あか 地震

あか 花 廿五 山 ありあけきりて○

あま 形○姿

あま 元 いそいで 女房のあけぬき○字の保 印の後の

あま 形 十二 ありあけきりて○源 若木 古

あま ありあけきりて○同 同 ありあけきりて

あま ありあけきりて○枕冊子 三行 ありあけきりて

あま ありあけきりて○ありあけきりて○ありあけきりて

あま 汝○非情ノモノヲモサシテイリ

十意 ありあけきりて 君の赤い糸をのりきぬきその花の

○

三言

あけ 気○ナキヲ音便ニテナイトム

狭衣 三中 三ウ 時 ありあけきりて○

かう 詠

枕冊子 世ハ あらうにうらぬてみそらにと
ていふあはれもあはれも一〇長明無名枕上あら月
のさうらひのあはれをきくとやういふあはれも
一〇今昔せせハコホレテニホフ花サク
ラ哉ト長メケレハ〇袂衣

あき祢 哭寝

新古表傷 あき事を今にぬき祢のあはれしてうらぬにききあはれに
新古表傷 も

〇源 若 若 よにあはれしてぬき祢よふ

あき

六帖 うらぬにぬき祢のあはれしてうらぬにききあはれに

〇玉勝間 新古雑上 雅經 道中

あき 新古雑上 雅經 あらうにうらぬてみそらにと

あき

海路 あき 夫木廿三同 あらうにうらぬてみそらにと

〇散木六 悲 歎 部 せろに日さうさあはれ

木さのこまハノ奇ノハハカキニテモシルヘシ又
十ホクハハシクイハハ管家集ニシテに在ルノ奇ニ
テ考レハオヨク海上ニ小山ノ如ククツツ大波
ノ末ノイワキハニシケクテヒサクヨルモノ
也ハシ故ニナコトナシトフタヨリヨメ
也ハシハナコトナシトナシテアタルゾキカ
○八雲世浪あしきをんあしきとら

古今春下 再考

拾五二海略

同七海上

おしき 浪のあしきとら

元貞集

同

伊勢の海のはるの汐船を風にあらしをまはらしたる
伊せは海のあらしをまはらしたるあましね思ふこゝろ
り

○伊勢物語浪のいと高きとあらし

六余本ニ波+

駒 廬とええとら

おしき 名簿

宇都保 後系君 名簿

簿書様台記名月記等ニ見ユ○宇治拾遺 物か

らふとて人のかゝるにゆゑとて名簿をなす事

○後撰雜ニとらふとて名簿をなす事

かきしひて兼輔朝臣の家におしきをいふ事

にその名つきあはしてせ之にちかふ事

七

兼喃オモ役ナル故ニ貫之ヲクノミテ名簿ヲ
オクテリテ名マヘテ通シカキテ身セシトセ
リナ
○今昔廿四十六今ヨリ偏ニ御弟子ニテ候
公ト云テ忽ニ名符ヲ書テナム取セタリケル

○同廿五九

○古事記六

○延喜式

○後拾遺雜三

○続世継 忍あせめい

あたら ナニヤカヤセ

中誓日記カ一巻ニクセンヨモテあにク引
もりきりあせめいあせめいあせめい

あのか

あのか 三ノ尊 あのかにあけあて 〇同 三ノ尊 三ノ尊 あのかにあ

あけあて

夫木十三丁 光明寺入道 明政
あのかにあけあて 〇同 三ノ尊 三ノ尊 あのかにあ

於遠外下
あのかにあけあて 〇同 三ノ尊 三ノ尊 あのかにあ

○浴譯 カホカタ 〇

あのか

五二集上
あのかにあけあて 〇同 三ノ尊 三ノ尊 あのかにあ

○ 此名のうの詞いふはあ、松高風有一声秋の句意ありて
さほき一ゆきしりきしもよみて鳥声外にた可ほくあのみと
らん——其意のまのあひり各をよみてはあええと

拾遺歌草上九十

秋風ぬと秋の葉風「名のうと人さそと秋もさそと秋の葉

雅經集 飛鳥井集

朝奈さほの丸屋にききと「秋もよあひるあきのうら風

○

あえて

夫木三 光俊

玉ほきの道のあえてはきかたきと「秋もさそと秋の葉

○

あへ

訖ヨシトヒ 日本紀訓。契人「声ナマルモ」也

金粟 連ふ かきりき木の北のうら声あへりき人あ

おしきりるをきて 永成法師 ありあひのあきさきまはは

あへ 律師夢危 ちちのうらきりあきあへりき

あへ 鳴澤。鳴砂

長秋詠藻下右大臣家百三 五月五月中

五月あひる秋のあきあへりきと「あへりきあひのあきあへりき

○ 長明無名抄上云五糸のうら入道「は道の長者あへり

あへりきあへりきあへりきあへりきあへりきあへりきあへりき

あへりきあへりきあへりきあへりきあへりきあへりきあへりき

あつね 中子田

後珍雜四
あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記

○

あつね 長橋

あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記

あつねの日記

新六 あつねの日記

あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記

○

あつね

金島上 橋幸道

袖中十六回

あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記

○

あつね

竹取玉の日記
あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記

あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記

あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記

あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記
あつねの日記

きまゝのまゝに○今昔廿六九長櫃ニツ荷テ持来
夕リ○同^七同^十長櫃ニ火多ク口テ叠厚ク敷夕
ルニ菓子食物十^十儲タル様微妙也○讃岐日
記長櫃にちぢきまゝのまゝに○増鏡 相^末 女^房
うさのちぢきまゝに○増鏡 相^末 女^房
のまゝに○増鏡 相^末 女^房
あうむりあうむり二倍のまゝに○増鏡 相^末 女^房

かうむり

葉花 若枝 あうむりあうむり二倍のまゝに○増鏡 相^末 女^房

み入て○字部保 上 国譲 長持のまゝに○増鏡 相^末 女^房

かうむり 間善

隆信集哀傷 あまゝ中々ゆて 父子ノ間 ○枕冊

子^辰廿八 中々ゆて 父子ノ間 ○枕冊

あてまの

続千釋教鳥羽院時時あてあての境をあまゝいて差
一付る

源東屋 一人のまゝに○増鏡 相^末 女^房

同
○

あはれ

希遠集三

拾玉四

○

あはれ
縄

○

あはれ

あはれ

○

拾遺雜

○

あはれ

五十四

○

射恒集

○

○

あゝうほ

波敷

曾丹集

今月の海に巻の波はうねりあつめを思ふと人かえんを
後碇意三

浪彩あづぬまのまじの思ひもいづれぬまを思ふ
同 伊勢

浪のえり多にちゆらゝるにちて波の敷をも思ひまを
○

あゝうほ

志のむね下

ほそくるきむて○浪

夫木世六 後鳥羽院
ふさのむねのむね風にあそぶけのあそびあひるる

あゝうほ

成合○

源松風
いづれにりり○同 若木
あそびあひるる

あそびあひるる○同 若木
あそびあひるる

あそびあひるる○同
あそびあひるる

五言

あゝうほ

茂如

六帖題 あいかりろ ○枕冊子 あいかりろ
源 文彦

共

之其失錯者外記作直物勅文奏上也此次被行
小除目叙位女官除目叙位等有無不定也

あゝゝゝゝゝ
紫集
あゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝ
拾玉
あゝゝゝゝゝ
成就

〇
あゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝ

六言

あゝゝゝ衣

後藤意三 野遠柔女

あゝゝゝ

拾遺意三

あゝゝゝ

宣晚あてま

同義も

あゝゝゝ

あゝゝゝ

あゝゝゝ

あゝゝゝ

同行乗

あゝゝゝ

あゝゝゝ

あゝゝゝ

あゝゝゝ

○
同 可 可
つ 祭 祭 佳
 ...
 ...

同 雜 春
つ 祝
 ○ 家集 ...
 ○ 契沖 ...
 ...

拾 送 雜 下
為 菊 法 原
 ...
 ...

○
万 代 名 又
梅 壽 女 師
 ...
 ...

○
同 可 可 可 可
 ...
 ...

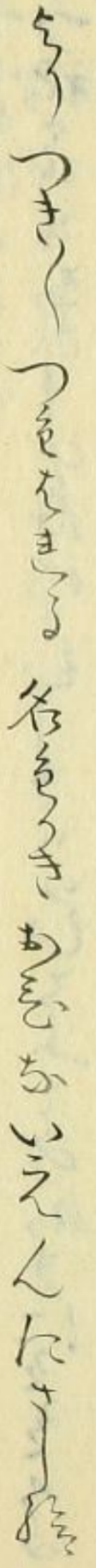
源若菜

上 

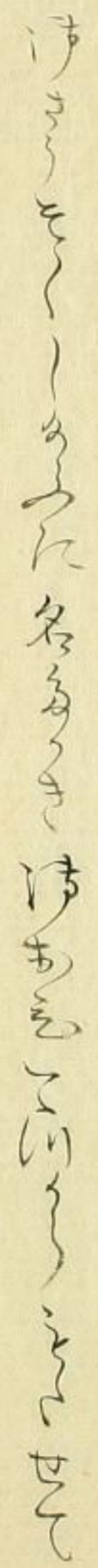
お玉清を命にれと○河 高名録云韓将落花形無魚

也生角 鵝形 雲形 鶴通天 鶯通天○細 石の

帯也○宇部保 色もあ ちかきくはしたちの清時

 名色つきあきあきえんた

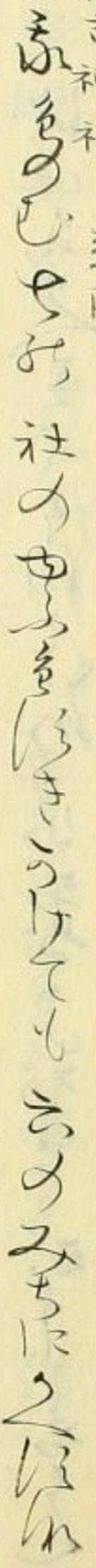
一糸  色○深 紅葉

 名多き清もあきく

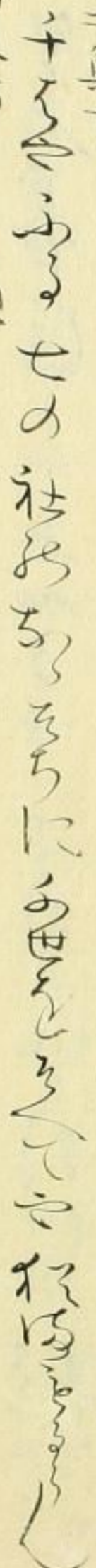
 いろい

あのみろ

新古神祇 意田

 社りゆき

壬二集下

 社あき

堀後百 後檀

 いろい

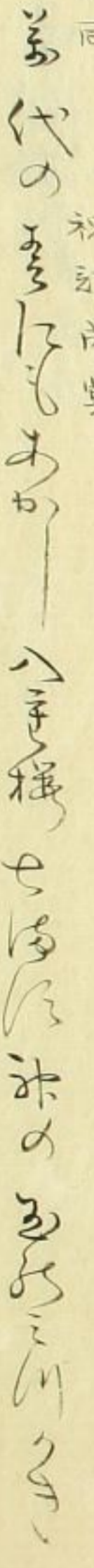
○

あむ神

夫木世四 意法

 神の

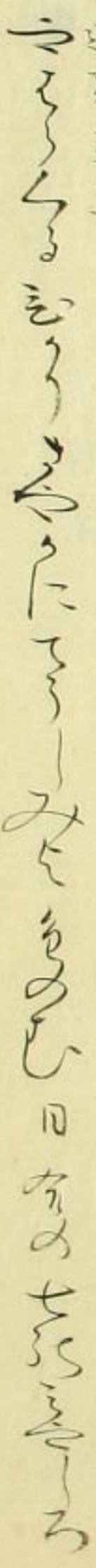
同 祝部成賢

 代の

続後拾神祇 祝部成久

 いろい

拾遺忍草上

 いろい

○

あはれの人

尚書多記 仲綱

ちりきり からの書

○

ふぬりりば

拾遺雜意いぬりばくたぬりば

な

海のふりて

セタヒマウ

○ 枕冊子

その色もい

その色もい

川

続古賢 大書と

コレハ大筆ニセタヒマ
ウラミ行カライフカ

ふえー たいらい 縄歌

字部保 後系天

あはれの人 不熟者

散本七巻上

○実方集小一條 敬めんくゝあそくゝそのかきうに
支木竹 天元四年四月小野三合 多そくゝ 読人不念
秋阿ぬの秋阿そくゝあそくゝのきうをに秋阿にさくゝを

にの部

一言

荷

五十八

つねのきいそくゝあそくゝのきうをに秋阿にさくゝを
敬本多偏改也
さくゝあそくゝにめつゝあそくゝかちも又とろくゝさくゝを浪

○

二言

二字 即名簿ノ事ノトカホシ

古事談三 一門子息筆献二字竹僧正仍被免

にあり

異本提中納言物語 ちううらけらきんが文きたりえ
ほまのけのちたにありしきもきんらにらえ ○水鏡
跋文世あうまえうちあうくの大鏡ぬもてこき
あきもたにあうー 他もて詞さー ちうもほくー
てたあもほくー ○

にあり 二階

思候日記 ちううらに二のちて紀まうけ ○同隊の上につ
きうけき。二のちめさうれし ○うけらる ちうとちまうけ

て二のちにあきちうー コシリニ階厨 ○源 東屋 けー
子 + ルバシ

二のちぬちあきまうけーくー ○

にきみ 症。和名症唐韻云一尔岐美小御也

業荒 しものあまし 肉にけりまきみおとーけーしん

ちうれーし ○同 根合 内めけりまきまうけらるあほあ

ちうせまうけ ○

荷鞍 ニクラ

為忠後百 仲正
あきちうらにけりぬちあきちうらまうけさああせう 時きん

支木サセ同

○

みけ免 逃目

添幕本

みけ免とついで ○ 今昔井一井 逃目う仕

ヒテ ○

西日

宗亮 玉巻

みけ免とついで ○ 今昔井一井 逃目う仕

ろくのみとついで ○ 今昔井一井 逃目う仕

みけ免

林兼五

みけ免とついで ○ 今昔井一井 逃目う仕

○ 大和物語 十巻 あり ○

二の海

一ツ
の
間

源上 著 花

階 あり ○

○ 細階の回りの二階あり ○ 讃岐日記 ほか

川 あり ○

廿

煎物ニモノ

セニジモノ

今昔廿八十八皆鍋ニ切入テ煎物ニ艶ス調美シ
テケリ中畧此和多利ノ煎物ヲ温メテ汁物ニ
テ食セタレハ〇同此十二煎物ニテモ母シ燒物
ニテモ美キ奴ワカシ〇

如意ニヨイ

北山抄ノ釋奠ノ又ノ日明經論義ノ所ニ博士
ノ如意ヲトル一ニエタリ〇

みき

竹取月みきみき遠下入みき〇

西言

みき

悪管抄五康頼みき若解みき
〇

みき

大和物語 〇

にくさき 未詳

万代雜四 能因

夫木廿五同

〇能因多枕云々

〇司長 瀬下

小町家集

〇司長 瀬下 浦

〇能因多枕云々

〇能因多枕云々

〇能因多枕云々

〇能因多枕云々

あけつ

源 玉

似氣付 〇

あむり 源

天菱竟宴歌 天雅彦奇注

〇書記 = バチワノヤ = ヌレタリ

にの人

舞苑 八回宴 九条より二人人舞 あまのまこ ちほ一々
まにま まにま 人に まにま せむる。○

二のゆら

源 幕本 二のゆら 二のゆら 〇 二番ト 〇

二のゆら

二ノ舞 舞苑 衣珠 二のゆら 二のゆら 〇 二番ト 〇

ぬきう ぬきう 〇 盛衰記 四十六 録倉殿蒲
和殿トテモ非可打解九郎カ様々二ノ舞モヤ
ト存スレハ上洛ノ一暫可相計 宣フ。○

庭のり

盛衰記 十一 隨身清房カ三馬ト云小馬ヲ賜テ
庭乗仕リケル程 = 〇

みん

志後百條政祭 為 為
おもし おもし 〇

入調

続世継 忍あまのきり
大食調ノ入調ヲ〇古事談六

同

道徳書十一巻集部書十三巻十五十九巻

入湯

中誓日記 ついでみちとみりこころて葉入湯しき女〇

中誓日記ついでみちとみりこころて葉入湯しき女〇

入題

中誓門宣胤卿記文集二年正月廿五日 三巻賜

入題 天酒寺〇

みほろ 諷

〇源 角徳 君多ちあはるのこころをくさるゝとくはるゝ

こころにみほろをーあまてーいん〇

みほろ 毛

後撰春上 喜性法師
うたの氣をまにちほきぬる神に白ひきうせさうしたん
六帖 みほろ

〇

月蝕

日蝕

拾遺雜意 日蝕の時 太皇太后云々 一日の事なり
うん ー ー ー

あまのついでにさしつかへなきにまはるる人々の心はた

山家集下

月蝕を記す

おぼしきこと 影にまはるるもさしつかへなきにまはるる人々の心はた

夫木十三回

新後撰雜上

夢の月蝕を祈る

法華能海

おぼしきこと 影にまはるるもさしつかへなきにまはるる人々の心はた

○東鑑廿八十四

今日可有日蝕之旨 宿曜備中法

橋依申之可被裏御所否○

五言

いんさく

後拾春上 通宗朝臣

六帖題

後拾春下 和泉式部

いんめい

鶴林

あまのついでにさしつかへなきにまはるる人々の心はた

にあまのついでにさしつかへなきにまはるる人々の心はた

道にまはるる人々の心はた

みまづツ○今昔廿八十極テ若リテ此モ彼モ否
不云テ居タラムハ○同同五皆若クナリテ止
ニケリ○水鏡下光仁
ふたにありて思ひ
まほした○

ニ相ニサウの人

淡松一 淨子母后にヤミウニニ相の人依り
一一人の心解け候もあはれしうとあはれし
うに候はし日ちうにえやもはしあはれし日本
人あはれ人候し○

みまづツの記ニ

池多にきかるあはれ月をみてみの心かきを思ひまづ

○計書

みまづツの記ニ 菅吟

保憲女集 びうハみまづツの記ニ 和名

みまづツの記ニ

万代雜一 入道多珍政九大臣
多をを ぬく 之をひの 花の ちきり ちきり ぬの 花の 跡を ぬく 免て
○ 続古表傷 同

七言

二月五番

後拾遺雜五 志之の山に二月五番とて花を つくし
行り ちきり ○ 季吟 杖云々 色えし 山の人も ちきり ちきり ○

妙のくりうら

敬木集隆源法師の ことば 多し ちきり ちきり ちきり

ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり

返一隆源法師
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり ちきり
支木 卅六

○東鑑十五廿八 但神社供祝 贄鷹 事者 非御制之
限○同四十三三十 諸社贄鷹外 禁断之處

十言

妙のくりうら

支木十二秋田

為家

那日

神因

Handwritten cursive text

○

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.

